



手作りイベントで笑顔いっぱい

西城しあわせ館まつり・4/16

No.5

第17回「しあわせ館まつり」が、庄原市西城保健福祉センターしあわせ館で開催されました。「元気いっぱい笑顔いっぱいみんなで咲かそう楽しもう」をテーマに、15団体によるステージ発表のほか、展示・販売、あそび、食事のコーナー、お茶席などが行われ、約400人が訪れにぎわいました。

実行委員長の小谷勝行さんは「しあわせ館まつりはいろいろな人が一緒になって作る、手作りのお祭りです。本年もみんなで楽しく盛り上がり、笑顔のあふれるお祭りになりました。これからも地域のみなんで力を合わせて幸せな町づくりのお手伝いをしたい」と話していました。



▲古川由紀さんの演奏でみんなで歌う

庄原をどんどん売り込みます!

道の駅たかの3周年「雪どけまつり」・4/16～17

No.4

オープン3周年を記念して「道の駅たかの雪どけまつり」が開催され、2日間で市内外から訪れた家族連れなど、約1万5千人の来場者でにぎわいました。

出荷者による対面販売、漬物づくりなどの体験型ワークショップコーナーでは、商品の特徴やおすすめの食べ方など、お客さんとの会話を弾ませながら、市内各地の特産品を販売していました。

17日には、国土交通省三次河川国道事務所、広島県警察、備北地区消防組合などの協力により、除雪車、パトカー、消防車など中国やまなみ街道沿線で働く車の乗車体験も行われ、来場者は庄原の「食」と「体験」を満喫していました。



▲出荷者による対面販売コーナー

花も団子も芸能も大集結

第1回庄原さくらフェスティバル・4/10

No.1

日本さくら名所100選の「上野公園の桜」を広くPRしようと4月10日、上野総合公園で「庄原さくらフェスティバル」が初めて開催されました。

会場では、庄原焼きなど地元ならではの飲食ブースをはじめ、スイーツやパンなどのカフェコーナー、フリーマーケットや手作り体験ブースが並び、市内外から多くの来場者でにぎわいました。

また、ステージでは、広島ホームテレビ「あっぱれ! 熟年ファイターズ」の松本裕見子さんによるトークショーや、地元団体による太鼓やダンスで盛り上がりしました。

大阪府から訪れた60代の夫婦は「7年連続庄原の桜を見に来ているが、今年が一番盛り上がっている」と楽しそうに話していました。主催した庄原さくらフェスティバル実行委員会の久保崇俊実行委員長は、「地元の方を中心につくりあげたまつりで、市民の方はもちろん、市外から訪れた方にも楽しんでもらった。庄原の魅力を感じ、『また庄原へ行ってみよう』と思ってもらえたら」と話していました。



▲会場の上野総合公園芝生広場



▲熟年ファイターズによるトークショー



▲各ブースも来場者でにぎわう

アマチュアカメラマンがずらり

日吉神社で「山王さん祭」早馬神事・4/17

No.7

山内町の日吉神社で「山王さん祭」の早馬神事が行われました。

11時に神事が始まるころには、参道に集まった親子連れやアマチュアカメラマンが、飾り馬の登場を今か今かと待ちわびていました。それぞれが一瞬のシャッターチャンスを見逃すまいと、位置取りやカメラの設定に入念な準備をしていました。中には珍しい神事をカメラに収めようと、出雲市から来た団体もありました。

かみしも姿の3人が飾り馬を巧みに操り境内に駆け込むと、カメラマンは一斉にシャッターを切り、撮った写真を真剣にチェックしていました。



▲参道を飾り馬が駆ける

まちなかが春のにぎわい

東城まちなみ春まつり・4/5～10

No.6

旧暦の桃の節句を祝う「東城まちなみ春まつり」が開催されました。五品獄城の城下町として開けた夢街道ルネサンス認定地区でもある「街道東城路」を会場に、商店や民家に代々伝わるひな人形などが飾られました。

成羽川沿いに続く桜並木もちょうど満開を迎え、訪れた人々は思い思いのまちなか散策を楽しんでいました。

主催した東城まちなみ保存振興会の横山和明会長は、「天候にも恵まれ、ちょうど桜も満開となり、春のまちなみをゆっくり楽しんでいただけたと思います」と話していました。開催期間中は、延べ1万3千人の来場者でにぎわいました。



▲厳かなたたずまいの人形

ひきこもりの悩みを共有する

総領でひきこもり講演会・3/17

No.3

てんとうむしの会（ひきこもり家族の会）主催によるひきこもり講演会が開催され、45人が参加しました。

臨床心理士の藤沢真智さんが「安心のつながりがあれば」と題し講演。「当事者と家族が、地域の中で安心して語れる場や、支えられる関係を持つことが大切」と語りました。

てんとうむしの会は、総領地域の当事者とその家族が安心して相談し、つながれる場となることを目指して、昨年9月に発足しました。

同会副代表の田辺妙子さんは「発足したばかりの会ですが、地域や関係機関と連携しながら、今後も活動を続けていきたい」と話していました。



▲藤沢さんに「語れる場や支えられる関係が大切」と教わる参加者

伝統祭事を再現

くちわ旧暦ひなまつり・3/27～4/3

No.2

口和自治振興センターで「くちわ旧暦ひなまつり」が開催されました。

口和地域では明治以降、新暦の3月3日にひなまつりを祝う風習が定着しましたが、それまでは桃の咲く旧暦（4月3日ごろ）で行っていました。

この「くちわ旧暦ひなまつり」は、地域の住民が昔から所有している七段飾りや三次人形などを展示して、伝統の旧暦ひなまつりを再現する行事です。開催中は、ひな人形のほかに短歌や俳句、写真などの作品が展示され、最終日には限定イベントとして地元のコーラスグループ「あんだんて」のミニコンサートや本の読み聞かせなどがあり、延べ300人の参加者でにぎわいました。



▲たくさんのひな飾り